

自己点検・自己評価 — 2025 年度 —

自己点検・自己評価の取り組み

本校では教育理念を基に養成所としての教育の質の維持・向上を図ることを目的に、自己点検・自己評価を組織全体で行っています。2025 年度は 10 回目の実施となり、結果を学校運営にフィードバックするよう努力しています。その結果を取りまとめましたので報告いたします。

自己点検・自己評価結果

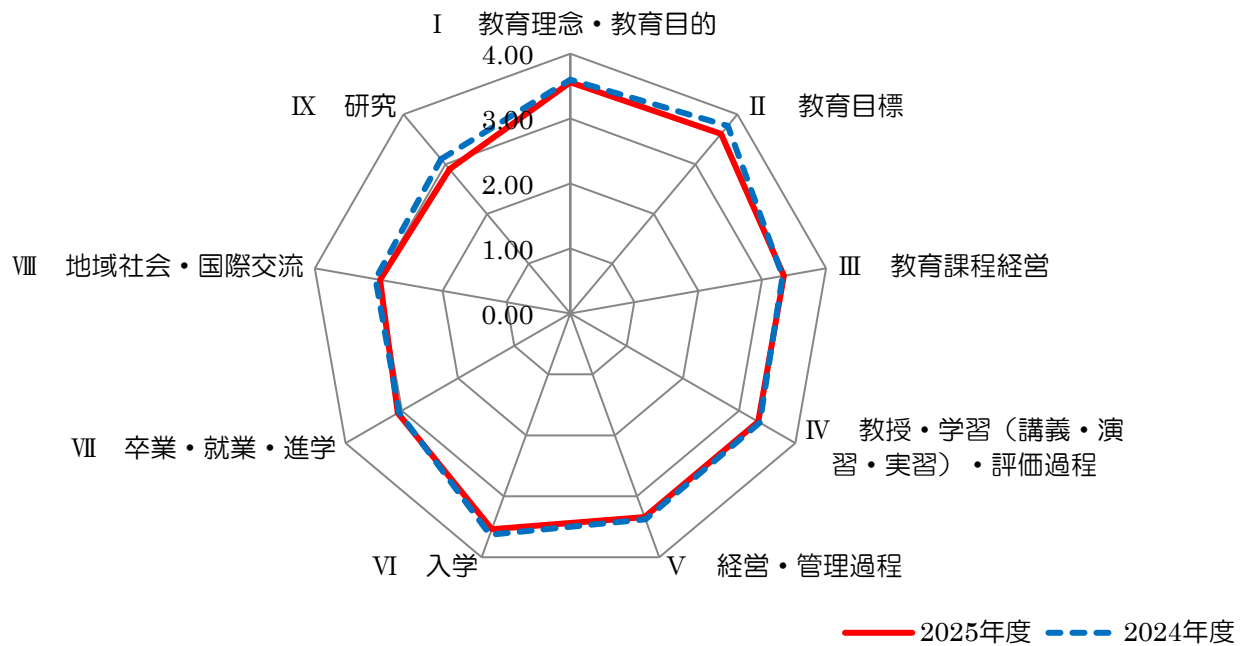
【評価期間】 2025 年 8 月 1 日(金)～8 月 12 日(火)

【対象人数】 常勤職員 14 名
回収率：100%（回答率 99.8%）

【評価方法】 評価は 4 段階とし点数化し集計、平均値を表した。
A：そう思う(4 点)、B：ややそう思う(3 点)……………肯定的評価
C：あまりそう思わない(2 点)、D：そう思わない(1 点)……………否定的評価
※平均値 3.0 点を基準ラインとし結果を分析した。

【評価結果】

大項目	小項目数	2025 年度	2024 年度
I 教育理念・教育目的	8	3.56	3.60
II 教育目標	6	3.61	3.77
III 教育課程経営	29	3.34	3.32
IV 教授・学習（講義・演習・実習）・評価過程	17	3.34	3.37
V 経営・管理過程	36	3.34	3.38
VI 入学	4	3.54	3.63
VII 卒業・就業・進学	7	3.07	3.05
VIII 地域社会・国際交流	7	2.98	3.05
IX 研究	3	2.90	3.10
合 計	117	—	—



結果と分析

2025年度自己点検・自己評価では、教育理念・教育目的から授業・学習支援に至るまで概ね肯定的評価となり、新カリキュラムの定着が着実に進んでいることが確認された。教育活動は理念・目標に沿って展開されており、授業内容の一貫性や教育課程との関連性も維持されている。一方で、学生の理解促進や授業評価の改善、教員の教育体制強化、実習における指導体制の充実など、教育の質向上に向けた課題も明確となった。特に学生のレディネスの変化や学習意欲の差異に対応するため、教員間の連携強化や評価方法の見直しが求められている。

経営・管理過程においても全体として肯定的評価が得られ、設置者の意思や指針、組織体制、財政基盤、施設設備などは概ね適切と評価された。しかし、教職員への情報共有不足や財政理解の偏り、学生支援体制のさらなる強化、広報活動の改善などが課題として挙げられた。学生支援では、背景の多様化に伴い個別対応の必要性が高まっており、教職員間での情報共有と支援体制の強化が求められている。また、地域社会との連携や国際交流、研究活動については一定の取り組みが進む一方で、さらなる活性化が必要とされている。今後は、教職員間の共通認識を高めながら、教育・経営の両面で改善を継続し、地域に貢献する看護師育成の実現に向けて取り組みを深化させていく。